

〈 社会人の窓 31 〉

もう一つの説の水路・難波堀江



岡崎善久

大阪平野は、淀川と大和川によって歴史が生み出されました。

古代の大和川水系から河内湾をみると、数条の川が湾内に流れ込み、多くの土砂が運び込まれて、周辺は多くの川に囲まれた湿地や窪地（水溜り）などが広がり、上町台地は小高い半島のように突き出ていました。

旧淀川は、琵琶湖に発し、はじめ南下し瀬田川となり西に流れます。京都に入って宇治川となり巨椋池に注ぎ、山崎附近で桂川・木津川と合流して、淀川となります。文禄2年（1594年）に豊臣秀吉は、伏見城を築く際に宇治川を巨椋池から切り離し、三川となりました。

古墳時代になると淀川は、摂津国の北中部を南西に向かってゆるやかに流れ、毛馬村および長柄付近で中津川とわかれ、南へと流れます。土砂が堆積して、淀川デルタは広がり、摂津国・北中部は、淀川デルタで埋められ淀川の流れは三国川の水路（出口）のみとなり、河内潟・河内湖となり、河内湖は草香江とも呼びます。（図1）

あちこちに寄り州ができ、浅い流れが寄り洲を縫うように抱いた糸のように流れ、やがて、南に勢いよく流れていきます。この付近の河川活動によって生ずる微高地、自然堤防がつくられ、淀川（大川）の景観を構成する地形が形成されていきました。大川の景観が形づくられていくと次第にこの地の美しい川の流れや自然堤防や心地よい風土が形成されていきました。

後背低地には田畑が広がり、草香江の周辺は、排水や高潮や台風などに悩まされます。

広い大阪平野の唯一の小高い丘・上町台地の付近では、長柄砂州と天満砂州のあいだに浸食のメカニズムが激しい干満差などで変化しました。この湖と海との境には、潮流や洪水などが砂州を穿って、その間を浅瀬となって流れていきます。乾期には河内湖・草香江の水はけが悪く大阪湾に流れにくくなっていきました。

そうして水路・堀江が形づくられる中で、人工的な外力で水路を開き、汽水域ができて、自らの力でだんだんと水路が大きくなり、底のほうも深くえぐられ、穿ってできた

のが「もう一つの説の水路・難波堀江」です。

*

そこには「サロマ湖畔の砂州の切断」という考えが「大阪平野のおいたち」の著書の106ページから109ページに述べられ、「難波の堀江」の考え方に一縷（いちる）の光となります。

河内湖は縮小され、草香江となり、草香江のすがたが消えると、二つの大きな池が生まれます。

大阪平野には、現在のような淀川の流れが形づくられて、大阪湾へと流れていきました。日本書記の説による人工の堀江の説が多いなか、人工的な力の説と自然の力も無視できないという説を足した結果が、もう一つの説として生まれ水路・難波堀江が形成されました。このほとりには「難波津」が整備されていきました。



図1 大阪平野：5世紀(400年)以降

河内湖および草香江は外的な要因や内的な要因により大阪平野の川は、都市の形成と共にさまざまなドラマを生み出していきます。

自然というものは、人間の存在に関わらず、絶えず変化・循環するものです。

参考文献

・大阪平野のおいたち：梶山彦太郎・市原 実=著、青木書店、1986

(岡崎善久建築事務所)

イベント報告

第7回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏 シンポジウム in 大阪

6月29日(日)12時30分頃から、エル・おおさか 606号室(大阪府立労働センター)で「第7回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪」が行われ、約50人が参加しました。ポスターセッションや基調講演、総合討論などを行いました。水辺賑わい創出についての河川環境や



竹門康弘氏による基調講演

かわまちづくりの支援制度、河川空間のオープン化などをお話していただいたり、淀川の恵みについての今までの恵みとこれからの恵みについての幼稚期に生息する海の魚介類や汽水域で生涯生息する魚介類、水産業を取り巻く現状などをお話していただきました。(雲雀 翔太)

Eボートに乗ろう IN 寝屋川

7月6日(日)、寝屋川駅前せせらぎ公園でEボート体験会を、摂南大エコシビル部、寝屋川ユースネット、ねや川水辺クラブ共同で行いました。久しぶりの寝屋川本川でのEボート運航、学生たちが張り切って一日中の運航を計画し臨時便も含め10便ほど行いました。準備をしていると橋の上から興味深そうに眺めている方が居たり、こんな所でボートが出来るんやとの声もあり、ポスターを見せながら説明すると乗船される方がほとんどでした。SNSで募集を掛けましたが、集まりが悪かったようです。エコシビル部のEボートはほとんど静水かそれに近いところが多いので、試験運航の時に流れがあるところなので下るときには楽に行けるが、帰りは漕いで登るのが少し大変なこともあり少し戸惑ったところもありました。当の運航に向けてコース取りや、上手く上れない時両岸からロープで引くなど考えて準備、無事運航することが出来ました。

乗船者からは寝屋川をこんなに近く感じたことがなく、水草や魚を見ることができて楽しかった。以外と水がきれいだったのに驚いたなどの声もありました。運営した学



寝屋川せせらぎ公園でのEボート乗船の様子

生たちも、乗船者の喜んでる姿を見てやって良かったと感じているようでした。又機会があれば駅前での運航をして寝屋川に市民の関心が向けば良いかなと思いました。

(ねや川水辺クラブ 竹井隆英)

高野川のゴリ調査及び産卵床作り

産卵床造成は7月06日(日)、効果測定は7月13日(日)に10時頃から12時頃まで、準備するものは、濡れてもいい履物・服装・着替え・飲料水等です。集合場所は鴨川出町柳デルタ(賀茂川と高野川の合流点)で賀茂川漁業協同組合主催、京の川の恵みを活かす会共催によるゴリ・ハエ産卵床造成講習会が行われました。6日は約15人、13日は約10人が参加しました。



調査中に発見されたゴリの卵

ハエとゴリの生活史解説と増殖方法の解説や鴨川の瀬でハエとゴリの生息状況調査、高野川沿いの浅場でハエ・ゴリ産卵床造成実習などを、行いました。

この活動では、ハエやゴリの生活史や増殖方法について解説を受け、基礎知識を学んだうえで、実際に鴨川の瀬における生息状況調査を行いました。特に、範囲内にある岩をめくって卵の有無を確認した作業は印象的で、魚たちがどのような場所を繁殖の場として利用しているのかを実感することができました。(雲雀 翔太)

天若湖アートプロジェクト 2025

7月26日(土) 11時から天若湖アートプロジェクトの
実行委員会として日吉町の関係者の方々へのあいさつ回
りと、なんたん龍の森夏まつりに参加しました。あいさつ
回りでは、天若湖アートプロジェクトのパンフレットを道
の駅スプリングスひよしに配布し、掲載していただきまし
た。また、宿泊場所の検討や照明のケーブル作りの打ち合
わせなどを行いました。



ステージトラックで行われたコンサート

夏まつりは開始の直前に強い夕立に見舞われ、開催が危
ぶまりましたが、しばらく後、突然晴れたことにより、な
んとか行うことができました。

会場の府民の森では、地元でとれた天然アユの塩焼きを
試食しました。頭は少し苦味がありましたが、身は柔らか
く僅かに甘味を感じとてもおいしかったです。他にも焼き
そばや、かき氷、一本キュウリなど夏祭りならではの、た
くさんの屋台が並んでいました。20時になると川沿いから
大きな花火が上がり始めました。花火をほぼ真下から見れ
たため、視界いっぱい広がる花火の大きさに圧倒されま
した。帰り道、花火の余韻と、屋台の香ばしい香りに、改
めて「夏っていいな」と感じました。(梅澤 祐輔)

イベント案内

第15回 川の恵みを活かすフォーラム

第1部 報告会 ～京と大阪で川の恵みを活かす～

水辺環境のための取り組みを行っている団体様たち
による年間活動報告会を実施します。

日時：2025年10月19日(日) 10:00～17:00

場所：京都大学 防災研究所宇治川オープンラボラトリー
本館1Fセミナー室

主催：京の川の恵みを活かす会

定員：70名

参加費：無料

第2部 食味会 ～川魚の味比べ～

琵琶湖や淀川汽水域を含む川の恵みの食味体験を実施
します。

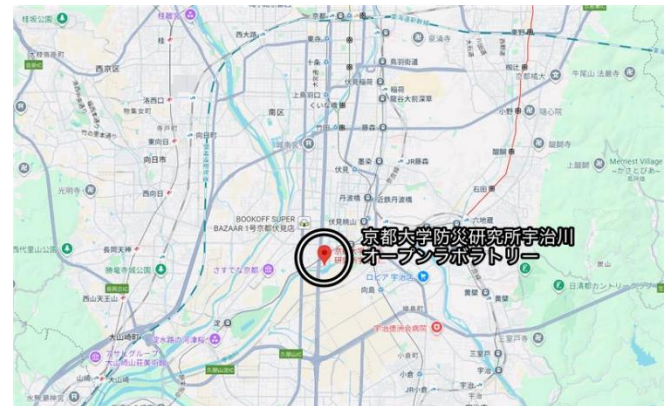
日時：2025年10月26日(日) 12:00～16:00

場所：京都大学 防災研究所宇治川オープンラボラトリー
中庭

主催：京の川の恵みを活かす会

定員：100名

参加費：3000円



近畿子どもの水辺交流会

日時：2025年11月9日(日) 10:00～15:00

場所：賀茂川北大路橋周辺および京都府立京都学・歴史館

天若湖アートプロジェクト 2025

「あかりがつなぐ記憶」

日時：2025年11月15日(土)～11月16日(日)

場所：日吉ダム(天若湖)周辺

主催：天若湖アートプロジェクト実行委員会

参加費：無料

茨田イチョウまつり

日時：2025年11月23日(日)

場所：茨田樋遺跡水辺公園

主催：茨田イチョウまつり実行委員会

支援：国土交通省淀川河川事務所

参加費：無料

クリーンリバー寝屋川作戦

日時：2025年11月30日(日)

場所：寝屋川せせらぎ公園・幸町公園

調査と成果

大堀 晃輔

本格的に研究に取り組み始めてからまもなく半年が経とうとしています。私は生態系やその環境など、自然に由来するものにはとても興味が有り、三回生でのゼミ活動の時からそれらに関連する研究をしたいと考えていました。現在は貝殻調査や魚類調査を中心とした、外来生物が淀川点野に与える影響についての研究を行っており、ゼミのメンバーの助力を得ながら地曳網の作業や貝殻の採取をしています。TV のドキュメンタリーなどでこのような作業をする光景は何度か見てきましたが、実際に自分がその作業に加わっているのだと考えるとこの上ない高揚感を感じます。

また、卒業研究の過程では調査で成果を得ただけでなく、その成果物を使用して料理もしました。2025 年 5 月 14 日に行った魚類調査では、体長が 60 cm を超えるライギョが地曳網にかかりました。外来生物であるため、持ち帰り解剖する対象となりましたが、同時にもともとは食用として海外から輸入されたというライギョの味が気になるということで、解剖後にゼミのメンバーでいただくという話になりました。



ライギョの唐揚げ

写真のように唐揚げにいただきましたが、たんぱくな味に肉厚で引き締まった身は鶏肉の唐揚げを食べるのと遜色のない美味しさでした。このような成果物を食事として楽しめるのは生態研究ならではの魅力だと思います。

研究も後半に差し掛かり、より忙しくなると思いますが、自身のペースでこれからも頑張っていきます。

(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ 4 年)

「故 佐藤大作先生遺児育英支援募金」のお願い

109 号でもお知らせした通り、摂南大学理工学部都市環境工学科准教授の佐藤大作先生がご逝去されました。ご遺族には、奥様と小さなお子様（長女、長男、次男）がおられます。この度関係者が相諮り、『遺児育英支援金』を募ることといたしました。趣旨にご賛同いただける方は、下記の口座へ振り込みをよろしくお願い申し上げます。1 口 2,000 円とし、何口でも結構です。締め切りは、令和 7 年 12 月末日といたします。

りそな銀行 寝屋川支店（普通 2230030）トボガアワカ
※振り込みの際、依頼人名の後に、『1981』をつけてください。なお振込票をもって領収書に代えさせていただきます。

書籍紹介

希望の一滴 中村哲、アフガン最期の言葉

著者：中村哲

発行：西日本新聞社

発行日：2020 年 12 月 25 日

定価：本体 1500 円＋税

書籍の帯には、「戦乱と干ばつ、そして飢餓。治療よりも水と食料が必要だと医師中村哲は 1600 本の井戸を掘り 65 万人の命を支える用水路を建設した。砂漠化した大地に緑がよみがえり家族があたたかな食卓を囲む暮らしが人間の暮らしが戻った。『平和には戦争以上の力がある一』」と書かれている。

(岡崎善久)



編集後記

「希望の一滴」の著者は医師でありながら「百の診療所よりも一本の用水路」と言う言葉の思想を掲げ単なる活動記録や写真集ではなく、「水」という根源的な要素を通して人間の生存・尊厳・希望を描き出した一冊です。

帯にも書いているように我々は「蛇口をひねれば水が出る」ような日本の日常の暮らしを私たちにとって「なんとなく」当たり前すぎて、その価値を意識する機会が少ないのが現実の社会です。「水が出る・ある」という事実の重みがどれほどの希望と夢を与え、水は自然が人間に与える大切な希望の贈り物です。

日本の伝統的な治水・灌漑の技術がどのようにアフガンで応用されてきたのか、また、日本ではモノが溢れ、工夫しなくなっている現実において考えさせる事実は、まさに文明の再生です。手に取って一度は読んでいただきたい「積んでおくべき」一冊です。

編集長 岡崎善久（岡崎善久建築設計事務所）